



SSH 通信



広島大学附属高等学校

SSH 通信作成委員

2024 年度 第 5 号

2024 年 12 月 18 日発行

第 5 号では、2024 年 11 月 12 日（火）に行われたシンガポールの中等教育学校訪問による共同授業について、2024 年 11 月 13 日（水）～16 日（土）に行われた韓国（ムンサン）訪日研修について紹介します。

<シンガポールの中等教育学校訪問による共同授業 11 月 12 日（火）@本校>



シンガポールの Beatty Secondary School の生徒 14 名が、探究的な授業を体験する目的で本校第 2 学年の学校設定科目の授業に参加しました。「数学 B Plus」は、統計的な推論の授業でした。公開されている論文にある猫の空間認識に関する調査データを分析するもので、猫のいる 1 つの部屋の壁側から飼い主の声の音声を流し、その直後に反対側の壁側から同じ声の音声を流した場合と、異なる声を流した場合の驚きスコア（観察者数名が数値化）の違いを比較するものです。グループでデータを書いたカードをシャッフルして 2 つの場合の驚きスコアの平均の差がどのようになるのかをシミュレーションし、クラス全体の結果を基にしてグラフをかきました。そしてタブレットでシミュレーションの回数を増やすことで、論文の実験結果がリアかそうでないかを判断しました。対応のない平均値の差の検定（t 検定）の考え方を学ぶ活動でした。タブレットの操作は簡単でしたが、数学のことばを英語で伝えるのが難しかったです。

「サイエンス・コミュニケーション」では、短文を読み、その文章のタイトルを考えるという活動でした。まずは英文を読んで内容を理解し、それからタイトルを考え、グループで話し合い、発表しました。英文をもとに目を引くような表現を考える活動は一緒に進めやすかったです。タイトルのつけ方の工夫について一緒に学びました。その後、課題研究の内容を説明し、内容や表現について議論する時間となりました。研究の動機についての質問が多く出され、簡潔に整理して伝えるのは大切ですが難しいと感じました。

Beatty Secondary School の生徒と先生は、午後にマツダミュージアムの見学に行き、イノベティブな製品開発を学んだそうです。また夕方には本校の茶道班と一緒にグローバル茶会で交流しました。



<韓国（ムンサンスオク高等学校）訪日研修 11 月 13 日（水）～16 日（土）@本校>

[研修の概要]

1 日目は広島駅で韓国の生徒をホストファミリーの生徒がお迎えし、ペアリング後各家庭に向かいました。

2 日目から本格的なプログラムが始まりました。開講式では、先生や生徒の挨拶、学校の紹介、プレゼント交換が行われました。その後、日韓の生徒がグループとなり、生物の実験を共同で行う授業を体験しました。韓国の生徒は、七宝焼き体験も行いました。午後からは、ユネスコ班の生徒による平和公園巡りがありました。

3 日目は、課題研究中間発表会でした。日韓の生徒が英語による研究発表を行い、様々な生徒やゲストとディスカッションを行いました。午後からは、閉講式、ホストファミリーも含めた交流会を行いました。

4 日目の朝、広島駅にて空港行きのバスを見送りました。



[共同授業：美術]

美術の授業では、七宝焼という技法を用いてキーホルダーを制作しました。七宝とは、金属の素地にガラスの粉（釉薬）を盛り付けて 800℃程度で焼き付ける工芸技法を指します。韓国の生徒たちや先生方にも体験していただきました。焼くという工程で作品が変身する楽しさや、自分の手で作ったものを生活の中で使う喜びなどの感動を一緒に味わうことができました。

[共同授業：生物]



生物の授業では、蛍の発光原理にも用いられるルシフェリンと ATP との化学反応について実験を行いました。専門的な学習内容だったため英語を用いて会話することが困難な場面もありましたが、互いにコミュニケーションを取ろうとする姿勢の大切さや、生物の奥深さについて学ぶことが出来ました。

生物の授業では、蛍が発光する原理を応用した ATP 拭き取り検査を行いました。この検査では、調べたい場所の清潔さを簡単に短時間で測ることができます。

実際に教室の汚い場所を予想して、計測しました。生物の専門用語が多く、お互いの公用語ではない英語で意見を伝え合うのはとても難しかったのですが、ジェスチャーや翻訳をうまく活用して、楽しく活動できました。国際交流では英語力はもちろん、それ以上に、お互いに理解しようとする姿勢が重要だと学びました。

[平和公園巡りについて]



ムンサンスオク高校の生徒と一緒に平和記念公園へ行き、ガイドとして記念碑の説明をしながら、記念碑めぐりを行いました。碑に込められたメッセージや、原子爆弾の恐ろしさ、被害の悲惨さについて英語で伝えるのはとても難しかったのですが、真剣な表情で説明を聞いてもらうことができ、嬉しかったです。お互いの文化や価値観が異なる中で、韓国の生徒と一緒に平和の大切さについて考えるというのは、とても貴重な経験になりました。

[ホストファミリーを経験して]

ホストファミリーになって、学んだことはコミュニケーションをとることの大切さと難しさです。お好み焼き作りにチャレンジしたり、一緒にショッピングしたりするなかで、コミュニケーションが上手くとれないときもありましたが、翻訳機やジェスチャーを通してなんとか思いを伝え合いました。家では韓国の文化や音楽、ドラマなどの話で盛り上がり、とても楽しい4日間を過ごせました。



私はムクダハン校から来日された人のホームステイを受け入れました。出会う前、私は言葉をうまく話せるか、快適な環境を作れるかがとても不安でした。しかし、実際に会って、4日間過ごしてみると、意志疎通はできましたし、また様々な場面で得られるものが多かったです。深い交流による多くの学びや経験を得ることができました。今回の経験を今後も活かしていこうと思うような貴重な体験ができました。

今回、ムンサンスオク高校の生徒と4日間一緒に過ごしました。最初は言語や文化の違いに不安がありましたが、実際に過ごしてみると非常に充実した時間を送ることができました。初日にはお互いにお土産を交換し、それがきっかけで自然に会話が弾みました。相手が日本語を一生懸命話してくれたことがとても嬉しく、私も韓国語で話し、お互い歩み寄る姿勢を感じることができました。

登校時、JR の切符が可愛くて持ち帰りたいと言い、駅員さんに頼んでいるときのキラキラした目がとても印象に残っています。特に楽しかったのは3日目の夜で、2時過ぎまで話し続け、話題が尽きることなく楽しみました。最終日には、1年後の再会を約束しました。このホームステイを通じて新しい友人ができ、言語や文化の違いを越えて、お互いを理解し合う楽しさを実感しました。この貴重な経験から作った関係を大切にしていきたいと思います。



シンガポールや韓国の生徒との共同授業や共同研修を通して、幅広い価値観を持った人たちとのコミュニケーションの大切さを実感し、これからの様々な学校生活について視野を広げることができました。

第6号では、2024年11月15日(金)に行われた「課題研究中間発表会」について紹介する予定です。